

大相撲における女人禁制の研究 (VI)

——平成18年(2006)九月東京場所の観客意識調査——

生沼芳弘*1・了海 諭*2・山本恵弥里*3

A Survey of Nix Women in the Sumo Ring (VI)

——The Case of The 2006 September Tournament Spectators' opinion——

by

Yoshihiro OINUMA, Satoru RYOKAI and Emiri YAMAMOTO

Abstract

The purpose of this paper is to look at the opinions of the “Nix Women” and the traditional Sumo patterns from the viewpoint of the spectators. For the survey, we handed out questionnaires to the spectators who saw the Sumo Tournament on September 13th, 2006. This survey made clear the conservative swing and more sexism of the “Nix Women” and so on, compare with the previous ones. One of the reasons might be that a long-expected prince was born on September 6th.

I はじめに

平成12年(2000)大阪府に初の女性知事に太田房江氏が当選し、2月8日の初登庁後の記者会見で「大相撲春場所で自ら土俵に上がって大阪府知事賞を優勝力士に直接手渡したい」と表明した。しかし、相撲協会から府知事が女性であることを理由に直接授与を拒否され、副知事が代理授与するという状況が続いている。この間の平成16年(2004)3月12日付け「住民監査請求に係わる監査結果(その4)」においては「男女共同参画社

会の形成に資するという観点から決して好ましいと言えないので、その贈呈の停止を検討」するよう勧告された¹⁾。従前の三回の監査結果よりも厳しい見解が示されたにもかかわらず、太田知事は知事賞の代理授与を続けた。

平成17年(2005)3月22日付け「住民監査請求に係わる監査結果(その5)」では、大阪場所の知事賞経費の違法性について「以上のことから、昨年及び今年の大阪場所の知事賞に係る経費及び協会に職員を派遣するための出張に係る旅費の支出が違法・不当な行為に当たるとの請求人の主張

*1 東海大学体育学部体育学科

*2 東海大学体育学部非常勤講師

*3 東海大学体育学部非常勤助手

については、理由がないものと判断する」²⁾と結論付け、知事賞経費の支出が認められるようになった。

監査結果は以上のとおりであるが、次のとおり意見が付されている。

「これまでの監査結果でも一貫して述べてきたとおり、大相撲知事賞の贈呈については、スポーツ振興と大阪を内外にアピールするという意義が認められるところであるが、知事が直接授与することができない状態で知事賞に係る経費を支出し続けることは、男女共同参画社会の形成の観点から好ましいとは言えない。また、この問題について透明性を確保しながら広く国民の意見を聞くための全国アンケート調査も未だに実施されていないところである。したがって、知事においては、引き続き協会への働きかけを行うなど、本問題の解決に向けて真摯な努力を続けられたい。」³⁾

大相撲の土俵における女人禁制に関する調査は、平成15年(2003)8月に太田知事より筆者に依頼があり、筆者が協会の了解を取り付け同年9月17日に東京場所11日目の両国国技館で男女観客数の調査を行ったのが最初であった。その後、調査は平成15年11月福岡場所7日目・平成16年正月東京場所7日目・3月大阪場所7日目・5月東京場所7日目・7月名古屋場所11日目・11月福岡場所10日目・平成17年正月東京場所12日目・9月東京場所9日目と計9回行われた。以上の調査結果は、大相撲における女人禁制の研究Ⅰ⁴⁾・Ⅱ⁵⁾・Ⅲ⁶⁾・Ⅳ⁷⁾に纏められている。

本研究は、大相撲の土俵における女人禁制について広く国民の意見を聞くための10回目の調査であり、平成18年(2006)9月13日水曜日、大相撲東京場所4日目の観客に行ったアンケート調査の結果報告である。調査の一週間前の9月6日、秋篠宮家に待望の男子が誕生し我が国は天皇制存続(女性天皇)の危機を脱した。このことが大相撲の女人禁制にどのような影響をあたえるのかも本調査の目的である。

II 調査方法

両国国技館で行われた大相撲九月東京場所四日目、平成18年(2006)9月13日水曜日の総観客数

は5483名、男性3069名(56.0%)・女性2414名(44.0%)であった。国技館の定員が11060名であるので、この日は約半数の入りであった。調査票は300部用意し、国技館の入り口付近で返信用封筒を添えて配布した。配布方法は、開場8:30から正午までの男女それぞれ5名に1部ずつ配布、正午から4:00までは男女10名に1部ずつ配布した。回収は入り口付近と臨時出口二ヶ所で行い、回答いただいた人には粗品として番付を差し上げた。当日回収できた調査票は152票、後日郵送されたものが38票、従って有効回答調査票は190票、回収率は63.3%であった。

III 調査結果

1. 回答者の概要

回答者190名の性別は男性が103名、女性が81名、無回答6名であった。平均年齢は全体が50.43歳(SD:15.95)、男性51.98歳(SD:16.26)・女性48.46歳(SD:15.43)であった。週末や祭日は若い人が多いが、平日は平均年齢が高い。回答者の年齢層(表1)は60歳代が最も多く、定年後の時間に余裕のある世代であった。回答者の自宅は東京都が最も多く73名(38.4%)、次いで神奈川県37名(19.5%)、以下埼玉県27名(14.2%)、千葉県25名(13.2%)、計162名(85.3%)が上記首都圏であった。回答者の約三割(57名)は、本日が初めて大相撲の本場所を観戦であった。また、回答者の約半数(86名)は二人連れて、36名が1人で大相撲の観戦に来ていた。

表1 回答者の年齢層

| | 男性 | 女性 | 合計 |
|-----|-----|----|-----|
| 10代 | | 1 | 1 |
| 20代 | 10 | 10 | 20 |
| 30代 | 23 | 13 | 36 |
| 40代 | 15 | 16 | 31 |
| 50代 | 9 | 18 | 27 |
| 60代 | 31 | 16 | 47 |
| 70代 | 14 | 7 | 21 |
| 80代 | 1 | | 1 |
| 合計 | 103 | 81 | 184 |

2. 土俵の女人禁制

女人禁制に関する11項目について、男女別に分けて集計を行った。

1) セレモニーで女性が土俵に上がること (表2)

「セレモニーで女性が土俵に上がること」について、賛成は54名 (30.7%)、反対は122名 (69.3%) であった。平成16年 (2004) の調査では反対が59.1%であったので、約10ポイント反対が増えた。平成17年9月の調査「表彰式に女性知事が土俵に上がること」では53.8%が反対であった。

表2 セレモニーで女性が土俵に上がること

| | 男性 | 女性 | 合計 |
|-------------|----|----|-----|
| 1 全く賛成 | 11 | 10 | 21 |
| 2 どちらかという賛成 | 20 | 13 | 33 |
| 3 どちらかという反対 | 34 | 26 | 60 |
| 4 全く反対 | 33 | 29 | 62 |
| 合計 | 98 | 78 | 176 |

2) 女性力士が土俵に上がること (表3)

「女性力士が土俵に上がること」について、賛成は20名 (11.5%)、反対は154名 (88.5%) であった。平成16年 (2004) の調査では反対が74.2%であったので、約14ポイント反対が増えた。

表3 女性力士が土俵に上がること

| | 男性 | 女性 | 合計 |
|-------------|----|----|-----|
| 1 全く賛成 | 5 | 3 | 8 |
| 2 どちらかという賛成 | 5 | 7 | 12 |
| 3 どちらかという反対 | 28 | 26 | 54 |
| 4 全く反対 | 59 | 41 | 100 |
| 合計 | 97 | 77 | 174 |

3) 女性が天皇になること (表4)

「女性が天皇になること」については、賛成が122名 (70.5%)、反対が51名 (29.5%) であった。平成16年 (2004) の調査では16.3%が反対、平成17年9月の同じ調査では14.9%が反対であり、この1年で約15ポイント女性天皇の反対者が増えた。

表4 女性が天皇になること

| | 男性 | 女性 | 合計 |
|-------------|----|----|-----|
| 1 全く賛成 | 29 | 30 | 59 |
| 2 どちらかという賛成 | 33 | 30 | 63 |
| 3 どちらかという反対 | 19 | 13 | 32 |
| 4 全く反対 | 15 | 4 | 19 |
| 合計 | 96 | 77 | 173 |

4) 女人禁制はこれからも守るべきだ (表5)

「女人禁制はこれからも守るべきだ」については、126名 (72.8%) が女人禁制を守るべきであると考えている。平成16年 (2004) の調査では、62.6%が守るべきと答えており、約10ポイント上がった。

表5 女人禁制はこれからも守るべきだ

| | 男性 | 女性 | 合計 |
|------------|----|----|-----|
| 1 全くそう思う | 41 | 28 | 69 |
| 2 そう思う | 26 | 31 | 57 |
| 3 そう思わない | 23 | 14 | 37 |
| 4 全くそう思わない | 7 | 3 | 10 |
| 合計 | 97 | 76 | 173 |

5) 男女平等の時代にナンセンスである (表6)

「男女平等の時代にナンセンスである」については、37名 (21.7%) が女人禁制をナンセンスと考えている。平成16年 (2004) の調査では、31.7%がナンセンスと考えており、女人禁制をナンセンスと考える観客は10ポイント下がった。

表6 男女平等の時代にナンセンスである

| | 男性 | 女性 | 合計 |
|------------|----|----|-----|
| 1 全くそう思う | 9 | 6 | 15 |
| 2 そう思う | 15 | 7 | 22 |
| 3 そう思わない | 38 | 45 | 83 |
| 4 全くそう思わない | 35 | 19 | 54 |
| 合計 | 97 | 77 | 174 |

6) 表彰式だけならかまわないのではないか (表7)

「表彰式だけならかまわないのではないか」については、86名(50%)が表彰式だけならかまわないとしている。平成16年(2004)の調査「表彰時にだけ女性が土俵に上がる事」では、52.8%が反対していた。

表7 表彰式だけならかまわないのではないか

| | 男性 | 女性 | 合計 |
|------------|----|----|-----|
| 1 全くそう思う | 14 | 10 | 24 |
| 2 そう思う | 39 | 23 | 62 |
| 3 そう思わない | 18 | 25 | 43 |
| 4 全くそう思わない | 25 | 18 | 43 |
| 合計 | 96 | 76 | 172 |

7) 女性を土俵にあげれば女性ファンが増える (表8)

「女性を土俵にあげれば女性ファンが増える」については、26名(15.1%)が増えると答えた。平成16年(2004)の調査では26.9%が増えると答えたが、今回約12ポイント下がった。

表8 女性を土俵にあげれば女性ファンが増える

| | 男性 | 女性 | 合計 |
|------------|----|----|-----|
| 1 全くそう思う | 5 | 1 | 6 |
| 2 そう思う | 14 | 6 | 20 |
| 3 そう思わない | 45 | 40 | 85 |
| 4 全くそう思わない | 34 | 27 | 61 |
| 合計 | 98 | 74 | 172 |

8) 相撲関係者の判断にまかせるべきだ (表9)

「相撲関係者の判断にまかせるべきだ」については、92名(54.8%)がまかせるべきであるとしている。平成16年(2004)の調査では55.9%であったから、ほぼ同じである。

表9 相撲関係者の判断にまかせるべきだ

| | 男性 | 女性 | 合計 |
|------------|----|----|-----|
| 1 全くそう思う | 18 | 11 | 29 |
| 2 そう思う | 33 | 30 | 63 |
| 3 そう思わない | 31 | 24 | 55 |
| 4 全くそう思わない | 14 | 7 | 21 |
| 合計 | 96 | 72 | 168 |

9) なんでも男女平等はおかしい (表10)

「なんでも男女平等はおかしい」については、130名(76.5%)が平等はおかしいとしている。平成16年(2004)の調査では60.6%がおかしいとしていたので、約16ポイント上がった。

表10 なんでも男女平等はおかしい

| | 男性 | 女性 | 合計 |
|------------|----|----|-----|
| 1 全くそう思う | 37 | 19 | 56 |
| 2 そう思う | 38 | 36 | 74 |
| 3 そう思わない | 13 | 15 | 28 |
| 4 全くそう思わない | 7 | 5 | 12 |
| 合計 | 95 | 75 | 170 |

10) このような伝統を重んじる社会があってもいい (表11)

「このような伝統を重んじる社会があってもいい」については、140名(87.7%)がこのような社会があってもいいとしている。平成16年(2004)の調査では77.3%であったので、約10ポイント上がった。

表11 このような伝統を重んじる社会があってもいい

| | 男性 | 女性 | 合計 |
|------------|----|----|-----|
| 1 全くそう思う | 53 | 29 | 82 |
| 2 そう思う | 31 | 37 | 68 |
| 3 そう思わない | 8 | 8 | 16 |
| 4 全くそう思わない | 3 | 2 | 5 |
| 合計 | 95 | 76 | 171 |

11) 男性社会に女性がしゃしゃり出るべきでない
(表12)

「男性社会に女性がしゃしゃり出るべきでない」については、118名(69.4%)が女性も男性社会に出てもよいと答えている。平成16年(2004)の調査では64.7%であったので、約5ポイント上がった。

表12 男性社会に女性がしゃしゃり出るべきでない

| | 男 性 | 女 性 | 合 計 |
|------------|-----|-----|-----|
| 1 全くそう思う | 13 | 10 | 23 |
| 2 そう思う | 16 | 13 | 29 |
| 3 そう思わない | 46 | 34 | 80 |
| 4 全くそう思わない | 20 | 18 | 38 |
| 合 計 | 95 | 75 | 170 |

3. 大相撲の伝統

大相撲の伝統その他に関する8項目について、男女別に分けて集計を行った。

1) 外国人力士が増えること (表13)

「外国人力士が増えること」については、104名(57.5%)が賛成している。平成16年(2004)の調査では52.5%、平成17年9月の調査では51.2%で、女性の回答者は反対が賛成を上回っていた。今回の調査で初めて、外国人力士に賛成する女性回答者が過半数となった。

表13 外国人力士が増えること

| | 男 性 | 女 性 | 合 計 |
|-------------|-----|-----|-----|
| 1 全く賛成 | 29 | 9 | 38 |
| 2 どちらかという賛成 | 32 | 34 | 66 |
| 3 どちらかという反対 | 33 | 31 | 64 |
| 4 全く反対 | 8 | 5 | 13 |
| 合 計 | 102 | 79 | 181 |

2) 学生力士が増えること (表14)

「学生力士が増えること」については、143名(81.7%)が賛成している。平成16年(2004)の調査では86.5%、平成17年9月の調査では80.5%が学生力士を認めている。

表14 学生力士が増えること

| | 男 性 | 女 性 | 合 計 |
|-------------|-----|-----|-----|
| 1 全く賛成 | 34 | 19 | 53 |
| 2 どちらかという賛成 | 45 | 45 | 90 |
| 3 どちらかという反対 | 19 | 9 | 28 |
| 4 全く反対 | 2 | 2 | 4 |
| 合 計 | 100 | 75 | 175 |

3) 大相撲はスポーツではない (表15)

「大相撲はスポーツではない」については、30名(16.9%)がスポーツでないと回答した。平成16年(2004)の調査では93.4%がスポーツであると答えた。

表15 大相撲はスポーツではない

| | 男 性 | 女 性 | 合 計 |
|------------|-----|-----|-----|
| 1 全くそう思う | 9 | 1 | 10 |
| 2 そう思う | 13 | 7 | 20 |
| 3 そう思わない | 24 | 36 | 60 |
| 4 全くそう思わない | 53 | 35 | 88 |
| 合 計 | 99 | 79 | 178 |

4) 大相撲は日本でだけ人気がある (表16)

「大相撲は日本でだけ人気がある」については、18名の約10%がそう思うと回答している。外国人力士が増えて大相撲の国際化が認識されてきている。

表16 大相撲は日本でだけ人気がある

| | 男 性 | 女 性 | 合 計 |
|------------|-----|-----|-----|
| 1 全くそう思う | 3 | 2 | 5 |
| 2 そう思う | 8 | 5 | 13 |
| 3 そう思わない | 51 | 49 | 100 |
| 4 全くそう思わない | 35 | 23 | 58 |
| 合 計 | 97 | 79 | 176 |

5) 立ち会い前の仕切り時間が長すぎる (表17)

「立ち会い前の仕切り時間が長すぎる」については、25名(14.2%)が長いと感じている。平成16年(2004)の調査では24.0%が長いと感じていたが、今回10P下がった。

表17 立ち会い前の仕切り時間が長すぎる

| | 男性 | 女性 | 合計 |
|------------|----|----|-----|
| 1 全くそう思う | 3 | 3 | 6 |
| 2 そう思う | 9 | 10 | 19 |
| 3 そう思わない | 46 | 49 | 95 |
| 4 全くそう思わない | 39 | 17 | 56 |
| 合計 | 97 | 79 | 176 |

6) チケットの値段が高い (表18)

「チケットの値段が高い」については、136名(77.7%)が高いと回答した。平成16年(2004)の調査では80.8%が高いと感じていた。

表18 チケットの値段が高い

| | 男性 | 女性 | 合計 |
|------------|----|----|-----|
| 1 全くそう思う | 21 | 24 | 45 |
| 2 そう思う | 48 | 43 | 91 |
| 3 そう思わない | 20 | 9 | 29 |
| 4 全くそう思わない | 8 | 2 | 10 |
| 合計 | 97 | 78 | 175 |

7) 結びの一番(終了時間)が早すぎる (表19)

「結びの一番(終了時間)が早すぎる」については、35名(20.1%)が早いと回答しただけであった。平成16年(2004)の調査でも20.3%が早いと思っただけであった。

表19 結びの一番(終了時間)が早すぎる

| | 男性 | 女性 | 合計 |
|------------|----|----|-----|
| 1 全くそう思う | 8 | 5 | 13 |
| 2 そう思う | 12 | 10 | 22 |
| 3 そう思わない | 54 | 51 | 105 |
| 4 全くそう思わない | 22 | 12 | 34 |
| 合計 | 96 | 78 | 174 |

8) 相撲は(アメリカの野球のように)日本の国技である (表20)

「相撲は(アメリカの野球のように)日本の国技である」については、17名(9.6%)が相撲を国技と思わないと回答した。平成16年(2004)の調査「相撲は日本文化である」には98.1%がそう

であると回答していた。

表20 相撲は(アメリカの野球のように)日本の国技である

| | 男性 | 女性 | 合計 |
|------------|----|----|-----|
| 1 全くそう思う | 66 | 47 | 113 |
| 2 そう思う | 22 | 26 | 48 |
| 3 そう思わない | 6 | 5 | 11 |
| 4 全くそう思わない | 4 | 2 | 6 |
| 合計 | 98 | 80 | 178 |

IV まとめ

過去9回の調査結果と10ポイント(P)以上の差のある項目は下記のとおりである。

- 1) セレモニーで女性が土俵に上がること — 反対者が10P増えた。
- 2) 女性力士が土俵に上がること — 反対者が14P増えた。
- 3) 女性が天皇になること — 反対者が15P増えた。
- 4) 女人禁制はこれからも守るべきだ — 守るべきが10P増えた。
- 5) 男女平等の時代にナンセンスである — 女人禁制をナンセンスと考える人が10P減った。
- 7) 女性を土俵にあげれば女性ファンが増える — 女性ファンは増えないと考える人が12P増えた。
- 9) なんでも男女平等はおかしい — 平等はおかしいと思う人が16P増えた。
- 10) このような伝統を重んじる社会があってもいい — あってもいいと思う人が10P増えた。

大相撲の観客は土俵の女人禁制において以前より保守化(男女差別化)したといえる。また、女性が天皇になることの反対者が15Pも増えたのは、本調査の一週間前に皇室に男子が誕生して、女人禁制の象徴である我が国の男系男子天皇制存続の危機が41年ぶりに回避されたことがその一因と筆者は推察する。唯一「表彰式だけならかまわないのではないか」が50対50のイーブンとなった。し

かし、全くそう思う（全くそう思わない）のポイントをそう思う（そう思わない）の2倍に換算すれば、110対129で「そう思わない（反対）」が「そう思う（賛成）」を上回ってしまう。また、昨年まで「外国人力士が増えること」では女性の反対が多かったが、今回の調査で初めて女性の賛成が過半数を上回った。モンゴルや東欧の外国人力士の活躍が影響していると考えられる。

引用・参考文献

- 1) 大阪府監査委員（平成17年3月22日）「住民監査請求に係る監査結果」大相撲大阪府知事賞に係る住民監査請求（その5），pp. 2
- 2) 同上，pp. 19
- 3) 同上，pp. 19

- 4) 生沼芳弘・了海諭・山本恵弥里他（2004）大相撲における女人禁制の研究（I）—大相撲観戦者の男女比—，東海大学紀要体育学部第34号，pp. 25～33
- 5) 了海諭・生沼芳弘・山本恵弥里（2005）大相撲における女人禁制の研究（II）—大相撲観戦者の基礎データ—，東海大学紀要体育学部第35号，pp. 59～63
- 6) 山本恵弥里・生沼芳弘・了海諭（2005）大相撲における女人禁制の研究（III）—大相撲観戦者の事例から—，東海大学紀要体育学部第35号，pp. 65～72
- 7) 生沼芳弘・了海諭・山本恵弥里（2005）大相撲における女人禁制の研究（IV）—外人観客の意識調査—，東海大学紀要体育学部第35号，pp. 73～81